

第5回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「地域のビジョンづくり」

日時 令和元年9月14日(土) 13時30分～15時30分

会場 生駒市南コミュニティセンターせせらぎ

資料説明	荒井奈良県知事
<p>奈良が良くなってきたと言われることがありますが、これはありがたいことだと思います。しかし、これでいいわけではなく、これまでの歩みを確認して、これから歩むべき道筋を探索する作業が必要となります。これからの奈良について、市町村長も一緒に議論をしませんかというのが、今日の会議の趣旨です。</p> <p>まず、これまでの奈良県の立ち位置ですが、奈良県では急速な人口減少や高齢化が進むとともに、県外就業率も全国トップクラスであり、成熟したベッドタウンにおける諸課題が発生している状況です。</p> <p>こういった次の世代への課題に対応するため、働く場の確保や子育て支援、まちのリニューアル等が大事だと認識し、取組を進めています。</p> <p>例えば、雇用や企業誘致の分野では、企業誘致に勢いが出てきています。過去12年の誘致件数は333件で、今後どう伸ばしていくかについては、福住の三甲の工場やこの地域を含んだ西名阪付近で工業ゾーンをつくろうと検討しています。また、小さな企業や若者も起業していただくことが必要です。奈良県は、起業のランクが決して低いわけではなく、全国13位の開業率であり、これを10位以内にするために、スタートアップのプラットフォームをつくることを心がけています。</p> <p>ここでお示ししている奈良新『都』づくり戦略(案)は、奈良発展の目標と道筋について、県民の皆様と議論を深めるためのたたき台です。今後、このような議論を行い、県民の皆様からご意見をいただいて、さらに戦略を進化させたいと思っています。</p>	

資料説明	小紫生駒市長
<p>生駒市では、住宅都市の抱える課題に対応するため、①市民との協創により課題に取り組む自治体3.0のまちづくり、②仕事と家庭の両立に地域というコミュニティを入れたワーク・ライフ・コミュニティの融合、③12万人総親和、インクルーシブのまちづくり、④行政の効率化だけでなく、生駒市の特性、強みを最大限に活かして稼ぐ、⑤奈良先端科学技術大学院大学があることによる最先端の技術と伝統文化の両立、という5つのキーワードを元に取り組んでいます。</p> <p>具体的な取組の一つとして、複合型コミュニティの創出があります。既存の健康体操教室等のコミュニティにイベントや農産物の移動販売等の色々な機能を組み合わせることで、異世代間交流の場や買い物支援にもなる最大の移動支援を実現したいと考えています。</p> <p>2年後に市制50周年を控え、まさに今大きなビジョンが求められる時期ですが、次の50年のビジョンもしっかりつくっていきたいと考えています。</p>	

資料説明	西脇平群町長
<p>平群町はまちづくりビジョンとして、①豊かな緑に包まれて暮らすまち、②地域資源が産業の活性と将来の希望をつなぐまち、③子どもの歓声がきこえ、住み続けたいと実感できるまち、④人と人とがつながる心豊かなまちの4つの理念に基づき取り組んでいます。</p> <p>具体的な取組として、①では、住民との協働による里山や竜田川を保全・活用する取組、②では、小菊等の生産や販売、新しい形の消費促進や工場等に適した立地という点を活かした企業誘致の取組、③では、幼保連携、認定子ども園の開設、高校3年生まで医療費の無償化、庁内連携による子育て包括支援の取組、④では、町民が自主的に社会に貢献できる活動の支援、自治会単位での自主防災組織の結成を進め、今後も安心して住み続けられるまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>また、現在、近鉄平群駅前に（仮称）平群町文化センター等の整備を進めており、これからの平群のまちづくりの礎として期待しています。</p>	

資料説明	中西斑鳩町長
<p>斑鳩町では、2060年に2万1,500人程度へという戦略人口の達成に向けて、①斑鳩町の子どもたち、チルドレン、②斑鳩の文化、カルチャー、③斑鳩という選択、チョイスからなる3つのCを柱に取り組んでいます。</p> <p>具体的な取組としては、地域子育て支援センターの設置等による町全体での子育て支援や史跡中宮寺跡の整備、県や民間企業と連携した、「和の精神でつくる新しい斑鳩づくり」、また、活力ある地元商業を目指し、「斑鳩ブランド」を認定し、斑鳩町を知ってもらうきっかけとして活用していきます。さらに、農と食の活性化プロジェクトとして、斑鳩産100%の菜の花油と黒米等の地域特産農作物の開発・調査研究し、食育の推進を図る取組により、地域農業を推進したいと考えています。</p> <p>今後も町の現状やこれまでの取組、住民の皆様からいただいたご意見等を反映させ、よりよいまちづくりを進めていきたいと思えます。</p>	

資料説明	西本安堵町長
<p>安堵町では、「ひと・まちが輝き生涯快適に暮らせるまち」を将来像として、それを実現するため、①個性輝く人が育ち、活躍するまち、②心うるおうふれあいのまち、③人・ものが集うときめきのまちの3つの理念を掲げ、まちづくりに取り組んでいます。</p> <p>安堵町でいつまでも暮らしたいと思える魅力あるまちづくりのため、子育ての切れ目のない支援として、学童保育の拡充、子育て広場の整備、さらに、令和元年4月より保育園を幼稚園と統合した認定こども園に移行し、幼児教育の充実に努めています。また、住民の皆さんが安心して暮らせるよう防災体制の強化として、国直轄事業としての遊水地整備や関連事業を国と連携して進め、災害に強いまちづくりの環境整備に取り組んでいます。</p> <p>今後は、SDGsとSociety 5.0の考え方をまちづくりに取り入れることで、地方創生のより一層の促進を図り、生涯快適に暮らせるまちを着実に実現したいと思っています。</p>	

